

# 宮崎県透析医会だより

藤元昭一

## 1 はじめに

宮崎県はおおよそ冬でも温暖で雪が降らず、1~2月は、野球やサッカーのキャンプ地として通常と比べ若干の賑わいをみせる時期である。そして、外来血液透析患者の通院に関して、通常は問題となることはごく一部の地域を除いてない。しかし残念ながら、本年は年明けから自然の恩恵を受ける状況とはなっていない。冬にも動物のえさが枯渇することもないため多くの野鳥が宮崎にやってくるためか、鳥インフルエンザが猛威を振るっている。さらに、新燃岳の約60年ぶりの噴火のため（前回の約10倍規模）、風向きのいたずらで地域によっては降灰に悩まされ、こちらも通院患者にとってはつらい。

## 2 宮崎県透析医会の概要

さて、宮崎県の透析医療に関する県レベルの活動は、昭和47年（1972年）以来、宮崎県人工透析研究会のもとで継続されてきた（日本透析医会宮崎県支部としての単独の活動はなし）。その間に、周知のごとく、我が国における透析患者の増加は著しく、透析医療の進歩も日進月歩であり、各施設も対応に追われてきた。さらに、近年には宮崎県においても、透析療法における感染症対策（C型肝炎院内感染の発生）や、災害対策の問題（台風・大雨による水害）と対峙する状況に陥った。これらの問題への対応を経験する中で、宮崎県人工透析研究会も行政や他医会との関連を強めながら活動していくことが今後の発展のために必要ではな

いかと、幹事会の中でも真剣に考えられた。しかし、県医師会の専門分科医会として認知していただくことは、簡単なことではないと思われた。幸い、県医師会との太いパイプを有する有志がいて、積極的に話し合いを進めていただき、県医師会の専門分科医会の一つとして承認され、2008年9月に旧称宮崎県人工透析研究会は宮崎県透析医会として新たな一歩を踏み出した。各病院において透析医療はなかなか独立した部門としては認知されておらず、その意味からも、内科や外科などと同様に専門分科医会の一つとして承認されたことを、有難く思っている。

当透析医会の現在の会員状況は、総数は90名、内、開業医等が45名、勤務医が45名とちょうど半数ずつの構成となっている（日本透析医会宮崎県支部会員19名）。会員の所属する医療機関は、以下のように、全県下の7医療圏のすべてにわたっている。宮崎県北部6、日向入郷6、西都児湯7、宮崎東諸県22、都城北諸県9、西諸6、日南申間6施設。平成22~23年度の役員を表1に示す。役員は泌尿器科医が5名、内科医が8名と、両科の壁はなく、一方、勤務形態別では開業医9名、基幹病院勤務医4名であり、会員の先生方と皆で協力して県下の透析医療を支えている。

また、現在の主たる問題点は患者の高齢化、合併症を持った患者数の増加であり、医療的にも人手的にも益々厳しくなっている。そのような時期でもあり、透析療法を支えているコメディカルの活動へも応援をし、本年度の6月には宮崎県臨床工学技士会が設立され、昨年度には腎不全看護研究会が立ち上がり、心強

表1 宮崎県透析医会役員名簿

会 長	藤元昭一 (宮崎大学)	
副会長	中山 健 (中山医院)	
幹 事	蓑田国廣 (みのだ泌尿器科医院)	会計担当・医学会担当
	池井義彦 (池井病院)	
	小川 修 (おがわクリニック)	
	上園繁弘 (県立宮崎病院)	医学誌編集担当
	佐藤祐二 (宮崎大学)	学術生涯教育担当
	久永修一 (古賀総合病院)	
	田中 隆 (田中隆内科)	
	盛田修一郎 (盛田内科クリニック)	医療安全対策担当
	福田聡一郎 (ふくだ泌尿器科医院)	医療保険担当
	家村文夫 (家村内科医院)	
監 査 顧 問	山下政紀 (山下医院)	
	賀本敏行 (宮崎大学)	
	長田幸夫 (県立日南病院)	

く思っている。

### 3 主な活動

宮崎県透析医会規約の第2条(目的)「本会は宮崎県下に於ける腎不全治療と透析療法の学問的向上をはかり、地域医療の向上に寄与し、ならびに会員相互の連絡を図ることを目的とする」に則り、講演会活動も積極的に行っている。

昭和47年より継続されている宮崎県人工透析研究会の第39回目を、本年度も7月の土曜日に行った。会員各施設からの発表に加え、東海大学医学部の深川雅史教授(宮崎県延岡市出身)と本田浩一先生(昭和

大学医学部)に、それぞれ、透析合併症としてのミネラル・骨代謝異常(MBD)と腎性貧血に関する講演をしていただいた。その他、宮崎県腹膜透析研究会、透析療法と安全管理セミナー(透析療法における感染・災害対策)等々を開催し、勉強とともに情報交換の場としても利用されている。

宮崎県においても透析医会としての組織は強化され、透析診療の面でも充実してきている感はある。しかし、透析医療を取り巻く環境や災害対策を含め、まだまだ十分とはいえない問題があり、今後も日本透析医会のご指導、ご支援をお願いしたい。